

美濃市古城山 環境保全モデル林整備・活用計画(概要版)

1 環境保全モデル林が目指すもの

人々の「暮らし」が森から離れ、利活用されなくなったため荒廃した「里山林」の再生を図り、持続的に保全していくため、現代の生活スタイルに即した里山の利活用方策を探り、人々が継続的に里山林に関わり続ける新たな里山林保全循環モデルの構築を図る。

具体的には、里山環境の保全活動を行うことで、そこから生み出される森の恵みを生産・提供し、それらを利活用することにより、そこから生み出される人材、活力や資金などにより再び里山環境の保全活動に繋げる循環モデルを作り出す。

2 美濃市古城山環境保全モデル林の概要

平成24年6月に、美濃市古城山の里山林を環境保全モデル林の第1号として選定。

場所: 美濃市古城山(武義高校、美濃小学校に近く、森林文化アカデミー演習林の南)

面積: 18.41ha

現況: 広葉樹、アカマツ、ヒノキ、竹等が生育。里山と人との関わりが少なくなり、荒廃が進行し、竹林の範囲が拡大(竹藪)。イノシシが生息し、市街地まで出没。

1. コンセプト

子どもたちが、遊び、学び、体験する中で、森と共に生き、ふるさとを愛する人材を育むことができる美しい里山。

2. 利活用を予定している団体

美濃市森林ボランティアクラブ、里山親交会、中濃森林組合、NPO法人杣の杜(そまのもり)学舎、大一建設株式会社

3. 整備・活用計画

各団体が希望する利活用を継続的(10年間)に実施していくため、必要な整備を県が行う。

利活用計画 [年間想定利用者数 5,000人]

(1) 里山に入り、親しむ人を増やすための活用

環境教育等のフィールドとしての活用 [同 700人]

美濃小学校等との連携により里山遊び、環境教育のフィールドとして活用。

・里山遊びプログラムの提供...昆虫採集、ツリーハウス作り、木工教室など

・環境教育プログラムの提供...生き物・樹木・植物・水生生物の観察など

・里山体験プログラムの提供...森林整備、きのこ栽培、薪づくり、炭焼きなど

散策の森として活用 [同 4,000人]

地域住民、観光客の散策フィールドとして活用。

里山文化・風習の再生フィールドとして活用 [同 100人]

(2) 里山保全を持続するための活用

森林・竹林整備による薪、竹等の利用・販売 [同 100人]

きのこ栽培、たけのこ採取など森の恵みの利用・販売 [同 100人]

利活用するために必要な整備 [整備費計 45,000千円]

(1) 作業道・散策路の整備 [21,000千円]

作業道...木材等を搬出利用するため砂利道を整備

歩道...モデル林を周回できる歩道を整備

(2) 里山の整備 [6,400千円]

竹林整備...景観的に美しい竹林を整備

除伐...景観や展望に配慮した広葉樹林等を整備

林内整備...容易に林内で活動できるよう整備

(3) 施設の整備 [11,500千円]

管理棟...活動拠点として、また、緊急時の避難場所として管理棟を整備(トイレを併設)

展望休憩施設...眺望ポイントに東屋を整備

標識等の整備

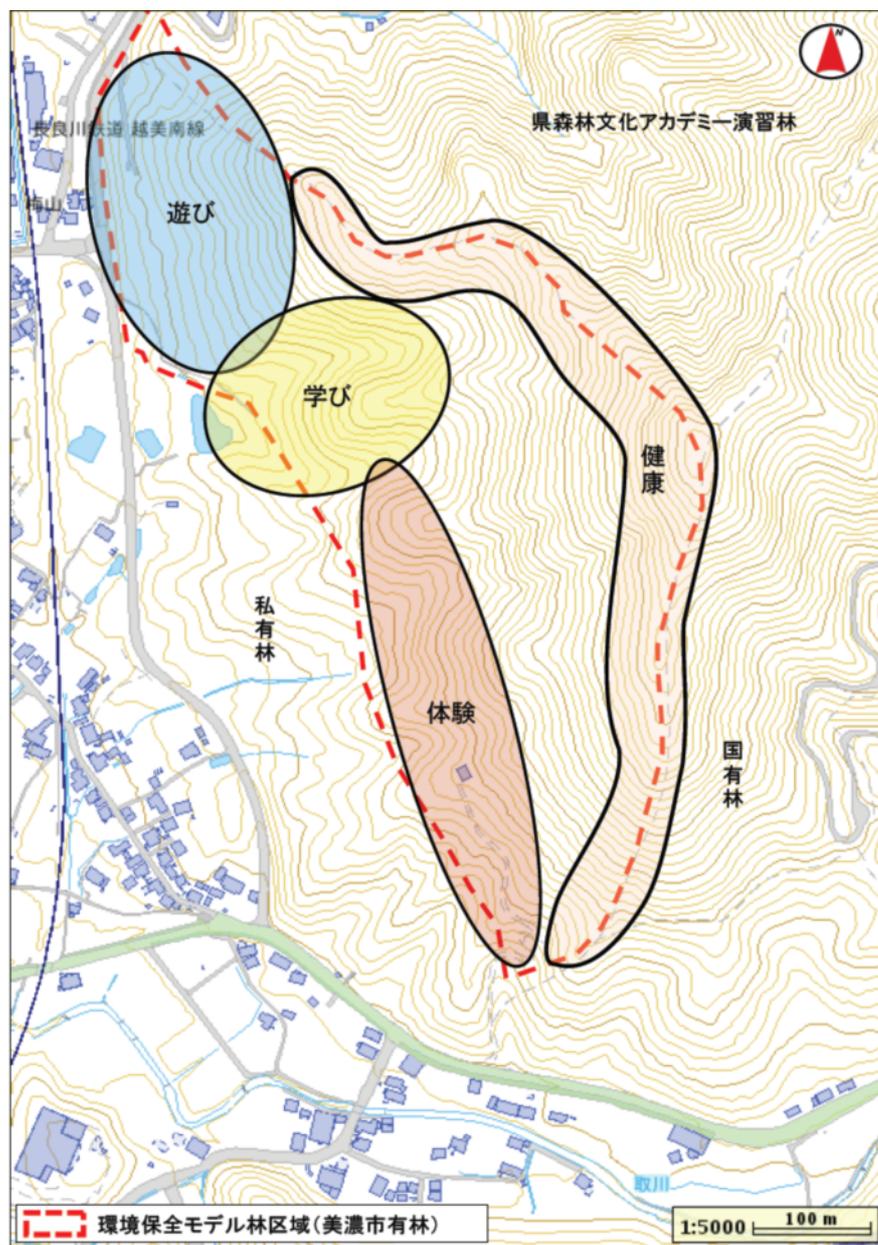
(4) 活動のための整備 [6,100千円]

薪ストーブ、倉庫、薪割り機、チップパー(木材粉碎器)、駐車場兼土場等の整備

整備の方針

(1) 里山を遊び、学び、体験、健康の4つのゾーンに整備

遊び	森は子どもたちの遊び場。 木に登る、木でおもちゃを作る、カブトムシを捕る、秘密基地を作る。 森で遊び、森の楽しさを感じます。
学び	ヒノキ、スギなどの針葉樹、コナラ、アベマキなどの広葉樹、野鳥、昆虫、沢ガニなどの生き物……。森には様々な生命が育まれています。 森が育む様々な生命を知り、ふれあうことで、森林環境の大切さを学びます。
体験	里山を維持していくためには……。定期的に人の手を入れ、森を整備するとともに、薪や竹などの森の恵みを活用していくことが必要です。 下草刈り、除伐、タケノコ掘り、キノコ栽培、薪づくり、炭焼きなど、里山保全につながる様々な活動を体験することで、森と共生する人材を育成します。
健康	明るく、爽やかな、美しい森の散策。ゆっくりと歩きながらリラックス、山道を走ってエクササイズ。 森を楽しみながら、心と体に健康をもたらします。



- (2) 小中学校、高等学校との連携
- (3) 美濃市にふさわしい美しい里山林
- (4) 森の恵みの活用による継続的な管理